

《平成23年2月議会（一問一答質問）質問および回答要旨》

1. 中山間地域の生活交通の維持確保について

《回答：地域振興部長》

県内の生活交通は極めて厳しい状況にありこれまでの支援要件を満たせないものが増加してきているため、従来の支援の考え方を抜本的に改め、市町村が柔軟に検討していきけるよう制度の見直しを行った。

また中山間地域では、交通空白地帯が増加しており、県としては市町村の行うディマンドバスの試験運行や、自治会等がモデル的に行う輸送活動について支援をしてきた。今後これを全県的に展開する方向で検討しているが、自治会輸送など特定の形態に特化した対策の導入には限界があると考えている。

そのため、市町村に多様な手段を提示しながら、地域住民と一体となった実行可能な活動を選択できるよう、その運行形態にかかわらず、立ち上がりに必要な経費を総合的に支援することとしている。

2. 高角橋の土木遺産認定について

《回答：土木部長》

高角橋は、昭和17年に完成した当時としては全国でも数少ない形式の橋であり、また町の中にあることから、日常的に利用する市民や来訪者にも印象深い橋と考えている。

この高角橋について土木学会に問い合わせたところ、高角橋は土木遺産認定の候補施設として土木学会が編纂したリストである日本の近代土木遺産に登録されており、土木遺産の認定は可能であると聞いている。

従って、継続的に利用される場合においては、土木遺産への認定は十分可能性があるため、新しい橋が完成した後の施設管理者と想定される益田市と相談していきたいと考えている。

3. 平成27年度新病院開院予定の益田赤十字病院への支援について

《回答：知事》

益田赤十字病院は益田圏域における救急患者の受け入れ、あるいは周産期医療、がん診療などの拠点となるなど、県西部、益田圏域の中核的な役割を担っている。さらに、近隣の病院への医師派遣や地域の医療従事者への研修を実施するなど、地域医療の支援にも貢献している。

そのため、県としては新病院建設に当たり、必要な情報の提供、助言を行うとともに、益田市と一緒に必要の財政支援を行っていくつもりである。また、これまで各地の拠点病院の建て替え等に支援してきているので、それらも踏まえながら検討していきたいと考えている。